

高齢者、障がい者、子どもなどが、 共生できる地域福祉の拠点づくり

京極町社会福祉協議会
未来へつなぐ夢基金プロジェクト

1 拠点づくりの経過

- 平成26年12月 前会長より「福祉のまちづくり」ためにと高額の寄付を受ける。
- 平成27年2月 理事会にて「未来へつなぐ夢基金プロジェクト」を組織することを決定。理事4名 社協職員5名で編成。
- 平成27年3月 「未来へつなぐ夢基金規程」設置

設置目的〈基金の規程より〉

「京極町に暮らす全ての人々が、明るく豊かな生活の実現をめざし、互いにつながりのある地域づくりを推し進めるため、社会福祉法人京極町社会福祉協議会未来へつなぐ夢基金を設置する。」

1 拠点づくりの経過

- 平成27年5月 福祉の拠点活動をしている施設の見学。
 - * 俱知安町の「ともに」と「陽だまり」の見学。
 - * 平成27年度に14回のプロジェクト会議
7件の空き家を検討
- 平成28年3月 空き家と土地(108坪)を購入。
空き家の内装改築を検討中。
- 平成28年7月8日 「共生型地域福祉拠点」支援事業を
要望

2 地域の課題

(1) 高齢者の課題

- ①元気な高齢者は増えているが、活躍の場はまだ少ない
- ②ちょっとした困りごとを抱えている(ゴミ捨て、墓参り、草むしりなど)
- ③一人暮らしで、偏った食事になっている、食の楽しみが少ない
- ④認知症の人の家族介護の負担が大きい
- ⑤町の交通が不便で、買い物や通院に困っている、車を手放せない高齢者のドライバーが増えている
- ⑥3年前に高齢者事業団(シルバー人材センター)が解散し不自由を感じる人がいる

2 地域の課題

(2) 障がい者等の課題

- ①働いたことがない、社会に出た事がない、ひきこもりの人がいる

- ②以前は働いていたが、軽度の障がいで何年も再就職ができない中高年者が増えている

- ③長時間は働けないが、短時間であれば働ける人の働き場がない

- ④軽度の障がいはあっても地域で暮らしている人を支えるサービスが少ない

2 地域の課題

(3) 子ども・子育ての課題

- ①近くに子どもを預けられる親類等がない

- ②仕事をする母親が増えているが、残業や土日勤務に子どもを預ける所がない

- ③子どもと一緒にいけるような飲食店がない

- ④中・高校生が楽しめる遊び場がなく、ネット依存の傾向

2 地域の課題

(4) 市街地の課題

- ① 近所付き合いが少なくなり、近所で困っている人がいるが手助けの仕方がわからない
- ② 店主の高齢化と後継者不足で店が減り、サービスも縮小されてきた
- ③ 市街地には連合町内会があるが、その周辺の集落の町内会には連合体がない。また、両者の交流も少ない
- ④ 他町村からの移住者が馴染みづらい風土がある

3 事業内容

(1) コミュニティ・カフェの運営

小規模なイベントが行える交流スペースがあり、食事や飲み物が提供できるキッチンも備える。

誰もが気軽に立ち寄れるような喫茶コーナーや、料理教室の開催、サークル活動など、多様な人が集まり利用できる場所の創設。

3 事業内容

(2) 暮らしの支えあいステーション(仮称)の設立と運営

- 高齢者のみならず障がい者、職のない人を募り会員制の組織をつくり、庭木の剪定、冬囲い、買い物代行、雪かき、ゴミ出しなどの軽作業を斡旋・仲介する事業。
- 困っている人も、助ける人も、全て会員登録し、時には困っている人も助ける側に回るような、支えあいの仕組みをつくる。

スケジュール

日にち	内容	項目	担当・備考
11月 8日	第1回運営委員会		
12月14日	第1回住民説明会		18:00～
12月15日	第2回住民説明会		10:00～
1月18日	第1回勉強会		18:30～
1月25日	第2回勉強会		18:30～
2月 1日	第3回勉強会		18:30～
3月18～20日	プレオープンイベント		20日PMは反省会・ お疲れさん会
3月20日以降	ワークショップの継続		

住民説明会（12月14日 15日）

項目	内容	備考
日時	平成28年12月14日（水） 15日（木） 午後6時から 10:00から	
場所	福祉センター研修室 商工会館（仮）	
目的	<ul style="list-style-type: none">・地域福祉活動拠点設置の紹介ができる（周知）・地域福祉活動拠点設置の意義・目的を伝える・運営体制について周知できる・活動に興味を持ってもらえる。	
周知	・ボランティア活動者、各住民団体へ案内状を配布する	
内容	<ul style="list-style-type: none">・会長挨拶・地域福祉活動拠点整備の意義と目的（局長）・地域福祉活動拠点の改修完成イメージ説明（藤波）・カフェ、支え合いステーションのイメージ説明（駒田）・地域福祉拠点の組織体制について（篠原氏）・感想の共有（GW）	









「高齢者、障がい者、子ども
などが共生できる地域福祉
の拠点づくり」。

☆ポイント解説☆

一つの機能があることで多くの人々が
社会参加出来る拠点を目指します！

例) 高齢者が子どもをみてくれることで
子育て世代の課題が解決されます。→
元気な高齢者が足踏の場が出来ます。→
子どもと高齢者の交流につながります。



はじめにもたせる2つの機能

まちの交通のこと



停留所、送迎サービス

市街地の活性化



交流の場、娯楽、趣味、運動、サロン

食に関すること



配食、惣菜づくり、料理教室、会食の場

子育てのこと



こどもをみてくれる、学習サポート
お父さんのサポート、技術知識伝承

高齢者、障がい者、
母子等の活躍の機会



アルバイト、ボランティア
就労サポート、フォローアップ

介護、障がいの相談



本人・家族の相談窓口、認知症カフェ
グループミーティング

身近な困りごと



支え手さがし、困りごとさがし
コーディネート、道具の貸出

人が集まる場所



コミュニティカフェ